

令和 4年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1493700130	事業の開始年月日	平成21年12月1日
		指定年月日	平成21年12月1日
法人名	ALSOK介護株式会社		
事業所名	グループホームみんなの家・横浜市ヶ尾		
所在地	(〒225-0025) 神奈川県横浜市青葉区鉄町1224		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員 計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和4年9月1日	評価結果 市町村受理日	令和4年11月1日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルス感染症予防対策として、オレンジカフェの開催や、地域の方々との交流がなかなか難しい状況ですが、近所の方が畑で育てたお花を差し入れてくださったり、職員が夏祭りに参加したりと出来る事はしています。また、地域ケアプラザ主催の「介護者の集い」にホーム長がアドバイザーとして参加し、地域の方々の介護に関する相談を受けています。日々の取り組みでは認知症の方が楽しく生き生きと生活している姿をブログで発信しています。コロナが落ち着いたら地域活動の「あざみ野認知症プロジェクト」にも積極的に参加して行きたいです。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和4年10月12日	評価機関 評価決定日	令和4年10月22日

【事業所の優れている点】

◇ 運営に関する職員意見の反映
管理者は日頃から、業務を一緒に行う中で職員の意見や提案を聞くように心がけている。職員から公平で働きやすい職場にするために「早番、遅番の業務が偏らないようにしたい」や業務の効率化を図り、空いた時間を介護に充てるために「1階、2階の業務を統一したい」など、前向きな意見があり、全体会議で意見交換を行い、可能な限り運営に反映させるようにしている。

◇ 認知症ケアの専門性を活かした地域貢献
コロナ禍の現在、地域との交流が難しくなっている中で、地域ケアプラザ主催の「介護者の集い」に管理者がアドバイザーとして参加し、認知症の人との接し方や介護の不安など認知症介護の方の相談にのっている。また、事業所でも実践経験を活かし、近隣の方々の介護の相談も受けている。

◇ ブログを通じた施設での活動の発信
事業所では認知症の方が生き生きと生活している姿をブログで発信している。四季折々の利用者の姿や、リモート盆踊り、タオル体操、ノアエクササイズのほか、10月にはリモートで運動会を開催する予定をしている。

【事業所が工夫している点】

面会が自粛されている中、日々の利用者の様子は写真入りの「一言通信」個人用と、全体の様子がわかる「市ヶ尾だより」で家族に送付し安心につながっている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム みんなの家・横浜市ヶ尾
ユニット名	1U

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ここで聴き ところで話し 笑顔で共に歩む」という理念を掲げて入居者様に寄り添ったサービスを心掛けています。	・事業所理念「ここで聴き ところで話し 笑顔で共に歩む」を玄関と事務所に掲示し、職員間で共有している。入職者には理念について説明している。利用者が日々穏やかに過ごしているかを意識しながらサービスを提供している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	オレンジカフェや地域の行事は中止となっていますが、近隣の方が畑で育てた花などを持って来てくれます。職員が地域の夏祭りに参加しています。	・コロナ禍前は地域の例大祭、どんど焼きに参加していたがコロナ禍の今は自粛している。 ・利用者は職員と一緒に散歩に出かけた時に住民に挨拶をしたり、施設のベンチから隣接する畑で仕事をしている住民と話をすることもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染症予防対策として、現在は中止していますが、オレンジカフェを通じて理解や支援の方法について発信しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染症予防対策として、会議は中止になっていますが報告書を送り、意見を求めています。	・コロナ禍の現在、運営推進会議は2か月ごとに書類で区担当課に送付するほか、地域包括支援センター、家族代表に活動状況報告書を送付し意見を求めている。 ・家族意見はコロナ禍の中での面会についての要望が多い。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域ケアプラザの会議や、介護者の集いなどに区役所の職員も出席しており、交流しています。感染症研修に参加しています。運営推進報告書を区に郵送しています。	・グループホーム連絡会に加入し、リモートで感染症対策などの情報交換を行っている。区の感染症の研修に参加し、職員と情報共有をしている。 ・地域ケアプラザ主催の「介護者の集い」に管理者が参加している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	年4回の「身体拘束廃止委員会」と年2回の職員研修を行い、身体拘束についての理解を深めています。	<ul style="list-style-type: none"> ・「身体拘束適正化の指針」を整備し、身体拘束廃止委員会と職員研修を開催し、年に2回チェックリストにより理解度を確認している。 ・安全に配慮しながら身体拘束をせずにいかに自由な暮らしができるか考え、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年4回の「虐待防止委員会」と年1回の研修を行い、虐待防止について学び、常に意識して業務にあたるよう努めています。	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待防止委員会と職員研修で「高齢者虐待防止法」を学んでいる。 ・管理者は年に2回個人面談をおこない、職員の個人的な悩み、人間関係などを聞き、ストレスがケアに影響がないか確認をしている。 	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修などに参加し、会議等で情報を共有しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定がある場合は、説明し、理解を得ています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご入居様の日頃の要望や、ご家族様の意見等は職員全員で共有し、全体会議などで運営に反映するための話し合いを行っています。	<ul style="list-style-type: none"> ・家族との信頼関係を重視し、利用者の個々の様子や実情を伝えて家族からも意向を聞くようにしている。 ・利用者の意向は言葉かけを多くして日常的な好みなどの小さな要望から満たしている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の全体会議、フロア会議での意見交換や、年に2度の個別面談、日頃の会話からも意見を聴き反映させています。	・管理者は日頃、業務を一緒に行う中で職員意見や提案を聞いている。 ・職員意見から「早番、遅番の業務が偏らないようにしたい」「1階、2階の業務を統一したい」など意見があり、全体会議で意見交換を行い、反映させている。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は日頃の従業員の功績などを月1度行われる事業所長会議や担当マネージャーに報告し、より良い職場環境整備に反映させています。	・管理者は人事考課を行い日頃の職員の努力、実績などを把握し上長に報告し職員の処遇に反映している。また、毎年健康診断を行い、職員の健康状態を把握し、維持に努めている。 ・職員は仕事に関し、やりがいや向上心を持って働ける環境にある。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修が開催される際には、職員に声掛けし参加を促しています。	・初任者研修や実務者研修などの資格取得支援制度があり、職員の資格取得に力を入れている。資格を取得すると処遇に反映している。 ・職務指示の研修のほか、パート職員も外部研修、内部研修に希望すれば受講することができる。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡会を通じて同業者と交流しています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様が生活に馴染めるよう、職員が積極的に話しかけて安心していただけるよう配慮しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が安心して頂けるように十分な話し合いを行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご入居者様、ご家族様の要望に沿ったケアプランを作成し、要望がかなえられる様心掛けています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様がいきいきと暮らせるように一緒に作業したり、会話をしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と話し合い、関係を築いています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染症予防対策として、面会を中止しているが、電話や手紙などでやり取りしています。	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で面会や外出を自粛しており、家族や友人の訪問はほとんど無い状況で、電話や手紙のやりとりを支援している。 ・今後は家族・知人や、地域住民との関係性を継続し、交流をしていく予定にしている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	安全を見極めた上で、一緒にお手伝いやレクリエーションを行っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も気軽にお電話いただけるよう退去時にお話ししています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の思いを日々の何気ない会話のなかから聞き取れるよう努めています。言葉が発せない方については表情やしぐさなどから読み取っています。	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の思いは日常的な会話や行動、利用者同士の会話から把握に努めている。 ・把握が困難な利用者には「本人は「どう思うだろうか」と職員間で検討し、利用者の視点に立った思いの把握に努めている。 	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の情報だけでなく、日々の会話の中から、生活歴やなじみの暮らし方を知るよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックや表情、会話、しぐさなどから心身状態を把握し、変化に対応出来る様努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランが実態に合っているかを常に確認し、ご本人、ご家族、医師、看護師などの助言を受けています。職員の意見を取り入れ、現状に合った介護計画を作成しています。	・家族に手紙や電話で意向の確認をしケアに反映されるようにしている。モニタリングを行い、本人、職員、医療関係者と課題を検討し、現状に即した介護計画を作成している。状態が変化し検討が必要な時は見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録にケアプランが反映されているかナンバリングすることで確認しています。変化が見られる時は職員同士で話し合い、介護計画や自薦方法の見直しに生かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当施設で提供できるサービスの他に、関連事業所のサービスを参考に取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染症予防対策として、現在は行っていませんが、地域ボランティアの方に施設行事などに参加して頂いています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の往診医の他に、ご家族が希望される場合は、外部のかかりつけ医に受診して頂き、情報は提供して頂いています。	・入居者、家族の同意を得て、事業所の協力医をかかりつけ医（内科）とし、月2回の訪問診療を受けている。 ・整形外科、神経内科などの専門医への通院は家族同伴で行い、結果報告を受けている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回医療連携看護師に情報を提供し、往診時に適切な医療を受けられるよう相談、助言をしてもらっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリーを作成し、病院に提供しています。病院と電話で情報交換、相談等を行っています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した際の事業所方針を説明しています。また、重度化の段階ごとに、職員、往診医、ご家族と方針を話し合っています。	<ul style="list-style-type: none"> ・入居時に「重度化した場合の対応指針」を説明し、利用者・家族の同意を得ている。重度化の段階ごとに、家族、協力医と話し合い方針を共有している。 ・職員研修を実施しターミナルケアに対する知識・理解を深めている。 	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを備えており、職員が迅速に対応できるよう訓練しています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練と年1回の水害訓練を行っています。	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練は、夜間訓練を含め年に2回実施している。夜間訓練は、1、2階で一人ずつの当番職員が対応し、各々の避難完了までの時間を計測し、結果について職員会議で改善策を話し合っている。 ・水害訓練を年1回実施している。 	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いに注意を払うほかに、表情、態度にも気を配り、プライバシーを守る介護を心掛けています。	<ul style="list-style-type: none"> ・年4回行う虐待防止委員会の中で、人格尊重とプライバシー確保について話し合っている。 ・職員行動指針に「虐待ゼロへの行動指針」を定め、やってはいけない行動・言動、やらなければいけない行動・言動を玄関に貼出している。 	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に話しかけやすい雰囲気や環境を作るように心がけています。自己決定ができるよう選択しやすい環境を造っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールで決められた事柄以外はご自分のペースで過ごされています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	選びやすい様にタンスに種類別に収納しています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭きや盛り付けなどをご入居者さまにしています。	<ul style="list-style-type: none"> ・献立作成から食材手配、調理は全て外注業者に委託しており、業者専属の管理栄養士が取仕切り、行事食や郷土料理も立案し提供している。 利用者の誕生日には前もっておやつなどを業者に発注して、他の利用者とともに、楽しんでいる。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量、水分量を記録し、必要量摂取できるようにしています。容器や補助具を利用し、摂取しやすい様支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士指導のもと口腔ケアのお手伝いをしています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンを把握しています。適時にトイレ誘導を行い、失禁を防いでいます。	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄自立の利用者を除き、排泄チェック表により、声掛け誘導に努め、オムツの使用が減少した利用者が4～5人いる。 ・トイレはドア付きでプライバシー確保に配慮している。 	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操や水分補給で排便を促すように工夫しています。排便チェック表で把握し、お薬の調整等を医師に相談しています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	身体の状態を確認し、安全な入浴を心掛けています。予定は組んでいますが、ご本人の気分に合わせて入浴時間や日程の調整をしています。	<ul style="list-style-type: none"> ・「虐待ゼロへの行動指針」で「嫌がる利用者に入浴介助を無理やり致しません」と規定し、利用者の気分に合わせて、入浴日程や時間を決めている。入浴を嫌がる利用者には、言葉かけを工夫し、入浴を促すように努めている。 	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息はご自分の好きな時間にとりて頂いています。介護度の高い方については職員が時間配分しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局が薬の説明を行いアドバイスを受けています。職員もご入居者様の状態を提供し、相互に確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝いはその方がやりたいこと、得意なことをして頂いています。歌を歌ったり、編み物をしたり、ご自身が好きなことをご頂いています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と散歩や外気浴を楽しんでいます。コロナ禍で、家族が同行するお墓参りや外食などはできていません。	・通常時は週2回散歩に行っているが、コロナ禍で外出回数を抑え、外気浴等を楽しんでいる。車がないため施設での遠出支援はできないが、家族と同伴の遠出は勧めている。盆、正月には半数の利用者が自宅に帰ったり家族旅行に出掛けている。	・施設として、現在のコロナ禍では外出支援が難しい状況ですが、終息後には職員のシフトなども工夫して外出頻度を高め、利用者の更なる満足度を高めることが期待されます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	物盗られ妄想による入居者様同士の金銭トラブル防止の為、金銭の所持は控えて頂いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りなど、職員が御手伝いして行っています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有のフロアには季節の掲示物を飾ったりして楽しい雰囲気になるようにしています。	・共用フロアには、お花見や七夕などの利用者の姿を捉えた今年の行事のカラー写真を貼りだしている。 ・利用者と職員の合作の折り紙で作ったハロウィンのタペストリーなどを貼り付け、季節感のある華やかな雰囲気を醸し出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置いてくつろげる場所を提供しています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の家具や飾り物、テレビ、仏壇、ぬいぐるみなどを持ち込んでおり、リラックスできるように配置されています。	・居室には、ベッド、ダンス、クローゼット、エアコンなどが設置され、水道蛇口付き手洗いセットまで設備している。利用者は、テレビや仏壇、ぬいぐるみのほか、一段高く床に座って過ごせるようマットなども持ち込んでいる人もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に転倒防止の緩衝材を敷いたりフロアには時計やカレンダーなど季節や時間がわかるようしています。		

事業所名	グループホーム みんなの家・横浜市ヶ尾
ユニット名	2U

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「こころで聴き こころで話し 笑顔で共に歩む」という理念を掲げて入居者様に寄り添ったサービスを心掛けています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	オレンジカフェや地域の行事は中止となっていますが、近隣の方が畑で育てた花などを持って来てくれます。職員が地域の夏祭りに参加しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染症予防対策として、現在は中止していますが、オレンジカフェを通じて理解や支援の方法について発信しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染症予防対策として、会議は中止になっていますが報告書を送り、意見を求めています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域ケアプラザの会議や、介護者の集いなどに区役所の職員も出席しており、交流しています。感染症研修に参加しています。運営推進報告書を区に郵送しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	年4回の「身体拘束廃止委員会」と年2回の職員研修を行い、身体拘束についての理解を深めています。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年4回の「虐待防止委員会」と年1回の研修を行い、虐待防止について学び、常に意識して業務にあたるよう努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修などに参加し、会議等で情報を共有しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定がある場合は、説明し、理解を得ています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご入居者様の日頃の要望や、ご家族様の意見等は職員全員で共有し、全体会議などで運営に反映するための話し合いを行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の全体会議、フロア会議での意見交換や、年に2度の個別面談、日頃の会話からも意見を聴き反映させています。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は日頃の従業員の功績などを月1度行われる事業所長会議や担当マネージャーに報告し、より良い職場環境整備に反映させています。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修が開催される際には、職員に声掛けし参加を促しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡会を通じて同業者と交流しています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様が生活に馴染めるよう、職員が積極的に話しかけて安心していただけるよう配慮しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が安心して頂けるように十分な話し合いを行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご入居者様、ご家族様の要望に沿ったケアプランを作成し、要望がかなえられる様心掛けています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様がいきいきと暮らせるように一緒に作業したり、会話をしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と話し合い、関係を築いています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染症予防対策として、面会を中止しているが、電話や手紙などでやり取りしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	安全を見極めた上で、一緒にお手伝いやレクリエーションを行っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も気軽にお電話いただけるよう退去時にお話ししています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の思いを日々の何気ない会話のなかから聞き取れるよう努めています。言葉が発せない方については表情やしぐさなどから読み取っています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の情報だけでなく、日々の会話の中から、生活歴やなじみの暮らし方を知るよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックや表情、会話、しぐさなどから心身状態を把握し、変化に対応出来る様努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランが実態に合っているかを常に確認し、ご本人、ご家族、医師、看護師などの助言を受けています。職員の意見を取り入れ、現状に合った介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録にケアプランが反映されているかナンバリングすることで確認しています。変化が見られる時は職員同士で話し合い、介護計画や自薦方法の見直しに生かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当施設で提供できるサービスの他に、関連事業所のサービスを参考に取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染症予防対策として、現在は行っていませんが、地域ボランティアの方に施設行事などに参加して頂いています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の往診医の他に、ご家族が希望される場合は、外部のかかりつけ医に受診して頂き、情報は提供して頂いています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回医療連携看護師に情報を提供し、往診時に適切な医療を受けられるよう相談、助言をしてもらっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリーを作成し、病院に提供しています。病院と電話で情報交換、相談等を行っています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した際の事業所方針を説明しています。また、重度化の段階ごとに、職員、往診医、ご家族と方針を話し合っています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを備えており、職員が迅速に対応できるよう訓練しています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練と年1回の水害訓練を行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いに注意を払うほか、表情、態度にも気を配り、プライバシーを守る介護を心掛けています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に話しかけやすい雰囲気や環境を作るように心がけています。自己決定ができるよう選択しやすい環境を造っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールで決められた事柄以外はお自分のペースで過ごされています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	選びやすい様にタンスに種類別に収納しています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭きや盛り付けなどをご入居者さまにしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量、水分量を記録し、必要量摂取できるようにしています。容器や補助具を利用し、摂取しやすい様支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士指導のもと口腔ケアのお手伝いをしています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンを把握しています。適時にトイレ誘導を行い、失禁を防いでいます。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操や水分補給で排便を促すように工夫しています。排便チェック表で把握し、お薬の調整等を医師に相談しています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	身体の状態を確認し、安全な入浴を心掛けています。予定は組んでいますが、ご本人の気分に合わせて入浴時間や日程の調整をしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息はご自分の好きな時間にとりて頂いています。介護度の高い方については職員が時間配分しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局が薬の説明を行いアドバイスを受けています。職員もご入居者様の状態を提供し、相互に確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝いはその方がやりたいこと、得意なこととして頂いています。歌を歌ったり、編み物をしたり、ご自身が好きなこととして頂いています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と散歩や外気浴を楽しんでいます。コロナ禍で、家族が同行するお墓参りや外食などはできていません。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	物盗られ妄想による入居者様同士の金銭トラブル防止の為、金銭の所持は控えて頂いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りなど、職員が御手伝いして行っています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有のフローには季節の掲示物を飾ったりして楽しい雰囲気になるようにしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置いてくつろげる場所を提供しています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の家具や飾り物、テレビ、仏壇、ぬいぐるみなどを持ち込んでおり、リラックスできるように配置されています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に転倒防止の緩衝材を敷いたりフローには時計やカレンダーなど季節や時間がわかるようにしています。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 みんなの家・横浜市ヶ尾

作成日 令和4年10月21日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	49	施設として、現在のコロナ禍では外出支援が難しい状況ですが、終息後には職員のシフトなども工夫して外出頻度を高め、利用者の更なる満足度を高める。	入居者様が散歩にでる機会を増やす。	各階単独でなく、1、2階の職員同士協力をして、時間をあわせて合同で一緒に散歩に行く機会を増やす。	1年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。